



キラキラ橋商店街視察

東京都墨田区京島

令和元年10月16日

大空襲を奇跡的に免れた東京の下町、昭和の木造住宅・長屋が多く、狭く入り組んだ「路地」の多い木蜜地区、墨田区京島、道幅5m程の通りに間口1~2間程度のお店が並び、街を歩くと昭和の時代に舞い戻ったかのような錯覚さえ覚える商店街、視察した日は定休日の店が多く、又午後の暇な時間帯でしたが人通りも多く活気に満ちた商店街でした。

●キラキラ橋商店街には、事業の3本柱として

1. 販促事業



朝市:毎月第4日曜日・午前6時~
38年以上続く
びっくら市:2,3,4,6,10,12月開催
40年以上続く
中元・歳末大売り出し:7月12月開催
いずれも長い歴史を持つ事業

続ける事が重要と痛感する!!

2. コミュニティー事業



ワイワイウイーク:毎年5月5日開催
七夕まつり:毎月7月7日頃に開催
商店街・高校・大学・福祉協議会・事業所など地域合同で開催
夜市:毎月第一土曜日開催

3. つまみぐいウォーク

キラキラ橋商店街の最大の課題「日曜営業問題」に踏み込んだイベントとして「つまみぐいウォーク」を開催、日曜しか商店街にこられない若い世代の、お客様を呼び込む為、外部団体(千葉商科大学の学生など)や地域団体の協力を得るなど、個店の売上に反映させ継続する。

●これからの商店街は？

新たな商店街活動に共通する特徴

一過性のイベントに終わらせない、全員参加を求めない、若手の参画、外部からのサポーターを巻き込む、自主財源での事業として継続できるかなど、「商店街組織としての収益事業の充実」が将来の商店街経営につながる。



キラキラ橋商店街



キラキラ橋商店街事務局長大和さんによる講演



視察を終えて

キャッシュレスを実践している商店街の視察研修ということでしたが、思いがけ無く聞きたかった話が聞けることとなりました。商店会の運営で一番の障害は、店主には自由になる時間が少ないという事です。商店会長は、時に自店の営業を犠牲にして、商店会活動をせざるを得ません。此のことが商店街活動の一番の規制となっています。キラキラ橋商店会の事務局長大和さんの存在があって、この商店街の事業がこれほどの多岐に亘る活動をし、かつ多くの商店を巻き込んで近隣の顧客を呼び込むという成功例。商店街には、商店街の事業をしっかりと推進していく専門リーダーが必要だというのが、身に沁みてわかりました。